

タウンミーティング 会議録

日 時：平成 18 年 11 月 21 日（火） 19:00～20:35

場 所：黒部市コミュニティセンター（生地）

テーマ：「新生黒部市のまちづくり」 ～総合振興計画策定に向けて～

参加者：43人

【事務局】

たいへんお待たせいたしました。それではただいまから平成 18 年度黒部市タウンミーティングを開催いたします。ご案内の通り、新市誕生後初めてのタウンミーティングで、市内 4 カ所、中学校校下ごとに開催する予定にしております。

今回のテーマは、「総合振興計画の策定に向けて、新生黒部市のまちづくり」でございます。最初に堀内市長からこのテーマについてご説明申し上げます。この説明には 20 分程度要するものと考えております。その後、会場の皆様からご意見をお受けしたいと思います。終了時間は 8 時 30 分頃を目処に進めていきたいと考えておりますので、ご協力の程よろしくお願いいたします。

また、本日のタウンミーティングにつきましては、受付で黄色いアンケート用紙をお渡しいたしたところでございます。このアンケート用紙にお答えをいただくとともに、今日実際にご発言されない市民の皆様からもご意見をいただきたいと思っております。日頃感じておられることをアンケート用紙に記入していただきますようお願いいたします。お寄せいただいたご意見を参考にしながら、今後、総合振興計画を策定していく予定にしております。

それでは堀内市長からご挨拶とテーマに関して基本的な考え方を述べさせていただきます。

【市長】

詳細については、「市長あいさつ及び下記の課題について（提起）」をご覧ください。

【事務局】

それでは、ただいまから会場の皆様からのご意見・ご提案をお受けいたします。発言される方は挙手をお願いいたします。係りの者がマイクをお渡ししますので、地区名・お名前に続きご意見等を述べていただきますと思います。

それともう一つお願いですが、このタウンミーティングでは、限られた時間の中で、できるだけたくさんの方からご意見をいただきたいと思っておりますので、ご発言はなるべく簡潔に、お一人 3 分以内を目処にお願いしたいと思います。それでは振興会にお願いして、あらかじめご発言の旨を伺っております村椿地区の A さんからお願いしたいと思います。

【Aさん】

どうも皆さんこんばんは。私、今紹介をいただきました村椿自治振興会の役員の一でございます。日頃皆さん方にはたいへんお世話になっております。今日は堀内市長さんをはじめ市の担当の方、たいへんお忙しいところ、このようなタウンミーティングを開催いただきまして誠にありがとうございました。皆様方には日頃いろいろお世話になっており、特に市長さんには合併後約 8 カ月ですか、精力的に仕事をされて、黒部市政も相当良い方向で進んでいると思っております。

また、今ほど市長さんから今後、短期・中期・長期ですか、そういう分野に分けていろいろなまちづくりの施策が提案されたところでございます。私も一市民として、この施策にたいへん賛成をしておるわけですが、この施策が着実に進むように、一市民としてできることは、私としてもやっていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくをお願いします。

今日は私から3つ程質問させていただきますが、今日のまちづくりのテーマから多少はズレているかと思いますが、その辺は一つご容赦のほどよろしくをお願いします。

まず1つ目ですが、いまさら聞くまでもないんですが、合併をして約8カ月が経過をしたところで、堀内市長さんの新たな現在の心境ですか、それと、先程も話がありましたとおり、合併はゴールではない、合併はこれからのスタートの第一地点だという見解がありましたけれども、私もそう思います。その辺の心境と抱負ですか、それがまず1点。

それから2点目でございますけれども、平成19年度の予算化要望事項ということで、我が村椿自治振興会は22項目要望させてもらったわけですが、なかなか今、国・県、ましてや黒部市も例外ではないと思いますけれども、たいへんな財政の困難な時期でございます。それは私共も分かっておりますけれども、旧黒部市と旧宇奈月町で413項目というふうに伺っておるんですが、今後その要望について、堀内市長さんは短期・中期・長期の兼ね合いもあると思いますけれども、どういう色付けで、今後要望を聞いていかれるのか、その辺を聞きたいと思っております。これが2点目でございます。

3点目でございますけれども、農業問題でございます。今から農業問題の細かい点についても、これはちょっと問題でございます。皆さんご承知のとおり、農業はたいへんな時期を迎えておるところでございます。黒部市の新しいまちづくりのためには、とりわけ黒部市では、いろいろな産業がありますけれども、やっぱり農業が黒部市の光る産業ではなかろうかというふうに思っております。国・県がいろいろな施策を考えておるようですが、黒部市だけでは、なかなか農業の振興というのは難しいかもしれませんが、国・県それから市、三者一体となって今後の農政をどういうふうに持っていくのかこの辺のところを一つお聞かせ願いたいと。以上3点ですが何か総花的で、まちづくりには直接関係ないかと思っておりますが、3点についてよろしくをお願いします。

【市長】

ありがとうございました。3点についてご質問いただきました。

はじめに、新市の市長に就任して8カ月が経ったわけでありまして、現在の心境と今後の抱負を言えることとあります。このことにつきましては、先程からお話しておりますように、合併を皆さん方のおかげで実現させていただいたというこの大きな転換期、そしてまた北陸新幹線が概ね8年後に開業して、その富山県に3つできる駅の一つが黒部市にできるという、この地域環境の大きな変化、そしてまた日本の国が戦後60年以上過ぎて、国民としての価値観、あるいは生活、そしてまた少子高齢化の時代の中で我々の社会全体が大きく変わろうとして、本当にこの地域だけではなくて、特に黒部市は合併、新幹線、そしてこの社会の変化、この大きな転換期を、私は苦しいこともたくさんありますが、チャンスとしてまず捉えなければならないと思っております。そしてこのチャンスをしっかり捉えながら、これから将来どう変わるかということ、皆で予想するのではなくて、どう変えなければならないのか、どういう地域にするんだという気概を持って、これからのまちづくりに取り組んでいかなければならないと私は思っております。

そういう中で、新しい黒部市の初代市長として本当に大きな責任を感じているのが今の心境でございます。今日、臨時議会もあつたわけでありまして、その中でも言いましたが、自分達、自分、市民の皆さん一人ひとりが、この地域にとって、このまちに対して何ができるのか、あるいは何をしなければならない

のかというようなことを考えていただいて、この地域を自分達の手で自分が創るんだというような、そういう自信と誇り、そして熱意を是非もってもらいたいと。そういうことによって、この地域が抱える多くの課題も解決できると思っておりますし、そしてこの大きなチャンスをつかえることによって、この地域が発展してくものというふうに思っております。そういう心境で今、毎日悪戦苦闘を重ねているところであります。

次に2点目の質問は、19年度予算化要望のことであります。先程413項目が各地区から要望があったというのは昨年度であります。今年は16地区それぞれ要望会を開き、要望を伺いました。最終的には今年度は327項目が各地区から重点要望ということで出されてまいりました。そのことについて、それぞれ各地区にとってはたいへん重要な要望でありますので、できるだけ早く実現するには努力しなければならないわけですが、その時もお話したように、年次的には、それらの中の2割強程度が何らかの実施を行うことができる、そういうような状況であります。単年度で行えるものもありますし、数年あるいはもっとかかる地区の要望もありますので、何らかの形で今アクションを起こしているものは、その内2割強ではないかというふうに思っております。そういう中でも先程から出ておりますような、この市域全体にとって大きな課題、テーマでもございますし、今ほど言いました地区の要望もございます。それらをしっかりと整理しながら選択と集中で緊急性・重要性、そういうものをしっかりと判断をして、それぞれの要望の実現に取り組んでいきたいと思っております。是非、その点も各地区の役員の皆さんにはご了解とご協力をいただきたいと思っております。

それから、農業問題であります。このことについてはたいへん重要なことだと思っております。農業あるいは農村、そしてまた農産物を取り巻く環境はたいへん厳しいものがあるというふうに思います。一つはまず米の消費が徐々に減っているということでもあります。もう1点は今、海外から穀物等をたくさん輸入しているわけですが、その関税が引き下げられる動きがあります。WTO世界貿易機構における農業の議論の中でも、日本の関税を引き下げろべきだというような動きなどがあり、輸入してくる食糧が安くなるというような問題がございます。そしてまた3点目は、やはり食料の自給率が先進国の中では最低であり、約40%と伺っておりますが、それら3つの大きな環境の変化の中での課題であります。

日本の国は今、19年度、来年度から経営安定対策が導入されるわけですが、これはご承知のように担い手に絞った経営安定対策でございます。認定農業者と集落営農組織に絞った雇用ということでございますが、そういう方々が黒部の中にもたくさんおられますが、そういう方々を中心にしてこれからの農業を進めていかなければならないというふうに思います。ただ農業の持つ意味は、食糧を生産するということと同時に、皆さんご承知のように多面的機能がたいへん重要であります。そのことによってこの日本の国土、あるいはこの環境が守られてきたということでもあります。ですからその両方、安心して美味しく食べられる米を生産するということと、この地域の環境を守るということとを両立させることが非常に重要である。そのためにはやはり生産面においては担い手の皆さん方に中心となってお願いしなければならないのですが、本当の名水の里黒部米の美味しいお米を作ってきたのは、やはり小規模農家、あるいは兼業農家の方々ではなかったかというふうに思います。ですから大規模農家、担い手の方のその農業と、そしてまた黒部市は兼業農家の方々が多いわけですが、その農家の方々と両方がやはり上手くやれるような、そういう指導をしっかりと行っていかなければならない。国は担い手に絞ったということですが、地元とすれば兼業農家の方、小規模農家の方のやはり指導、ご協力をしっかりと行っていくことがたいへん重要であるというふうに思っておりますので、これからもバランスのとれた農業施策を行っていくということでもあります。是非ご理解ご協力をいただきたいと思っております。

【Aさん】

どうもありがとうございました。

【事務局】

それではもうお一方、あらかじめ発言の旨を伺っております。生地地区のBさんよろしくお願いたします。それとどうしてもお話が長くなるようでございますが、ご発言はなるべく簡潔によるしくお願したいと思っております。

【Bさん】

生地のBと申します。細かい話は省略させていただき、端的に入っていきます。

市長さんも旧黒部市で1年8カ月、新黒部市で8カ月くらい経過し、こういった中で今日のタウンミーティングなんですが、今、各所のタウンミーティングで問題が出てきております。その中において発言者と発言内容を提出せよとか、こういうことでタウンミーティングというものは圧力がかかるとか、そういう問題が生じているのではないかとというのがまず1点。このように提言を伺わないと発言できないのかということです。次に、施設管理公社の問題が新聞等々にでております。これは要するに議会からも監査委員が出とるはずで。その中において、ああいう問題が出てくるということはどういうことになっているのかということです。議会にも責任があるのではないかと。しかも今分かったわけではなく、1年前から、合併前の話、そういう話を聞いとるわけです。

そういう観点と、もう一つは、先般の市議会議員選挙において市の職員が選挙運動をしていたという、一般市民の見方からそういうふうにとれることもある。こういう観点からも、まず意識改革が必要でないか。こういうことをきちんとやらないと、要するにまちづくりっていうものはできないのではないかと。その辺をどのように思っておられるのか。

それと危機管理の問題としては、先般今月の7日、9時半頃に暴風警報が气象台から発令されています。その問題に関して各町内会長さんが防災無線を持っておられるが、その防災無線にその連絡が流れたのが11時半だった。この2時間というのはどういうことになっているのか。こういうことで、要するに黒部市の危機管理というものはなっとるのか。こういったことで安全のまちづくりができるのか。こういったことに対しどのように思っておられるのか。今現在、黒部市の危機管理はどういうふうになっているのですか。今これだけ他所でやかましく危機管理をしなくてはいけないと言われている中において、こういうものはどうなっているのかということです。

あともう2点ほど、新幹線問題についてですが、新幹線は道路網が一番重要になってくるのではないかと。今現在の話からいくと8号線オンリーの状態ではないか。ある程度やっぱり駅の使用量というのを見定めなければならないのではと。そのためには、やっぱり魚津・入善・泊の方とこれを連帯した、魚津市とか入善町・朝日町、この辺と連帯した道路網の整備っていうものが必要になってくるのではないかと。そういうものが入っていないのではないかと。黒部市内の道路網の整備も必要であるけれど、そういう道路ばかりをつくっていても始まらないのではないかと。そういう道路の整備問題があるんじゃないかなということでもあります。

それで最後に、生地地区もこれだけ観光ボランティアや「できたて館」、「とれたて館」ということで、お客さんもたくさん来られ、皆さん非常に頑張っておられます。そういった中において、実は生地はどういうふうなまちづくりをすればいいのか、どういうものが考えられるか。それと活力のあるところにはお金を出すとかって言うておられましたけども、本当に出しておられるのか。そういうところに出ているのか疑問に思う。最近市長の言うておられることと実際はちょっと話が違ってきているのではないかと。そういう意識があるのです。というのはなぜかということ、今現在、三日市で行われている区画整理というもの

は本当にやらなければならないものですか。400億円近いお金をかけてというふうな気持ちがあるんです。以上でございます。

【市長】

ありがとうございました。たいへんたくさんご質問いただきましたが、簡潔にお答え申し上げたいと思います。

まず、最初にタウンミーティングの在り方について、事前に質問をなぜ聞くのかということであります。まず質問の内容については、こういう質問をして下さいとかそういうことは一切ございません。できれば聞いた方がいいというのは、初めて聞く話で全くその状況が分からない質問がでた場合、お答えのしようがないということ等があります。質問される方に適切にお答えするには事前に、今聞いた話の中でも全く知らない話の一つございます。ですからその質問については、私は今、適切に答えられません。そのようなことがあったということをお知らせいただければ、状況を確認して、そしてまた今後の対策をお答えできると思います。そういう意味でどのような質問をされるのか、できれば聞かせていただいた方が適切なお答えができるということでもありますので、その場に行って突然言うっていう方はそれで全く結構で、全く問題ないと私は思っておりますが、やはり質問したことに答えられなければ、質問された方に失礼かなということで、そういうふうを考えているということでもあります。

それから（財）黒部市施設管理公社の不正流用の件、たいへん皆さん方にご心配やご迷惑をお掛けいたしました。心からお詫び申し上げたいと思っております。このことについては、今日も議会の皆さんにご説明をし、今後の対策をお話しました。これを言い始めると相当時間がかかりますので、簡潔に言いますが、まずお詫びを申し上げて、今後の対策として、監査の在り方を見直すということでもあります。当然、黒部市の代表監査委員であった福島代表監査委員と、そして室谷助役が監事に入っており、監査を行っていたのに、これを見抜けなかったということでもあります。それはやはり、たくさんの監査がございます。昨日も17年度の決算の状況を調査していただいたわけではありますが、38会計、今年度はございました。それからまた外郭団体の監事にもなっておられて本当に全部監査しよう、1年間の動きを全部監査しようと思ったら、専門の方を雇わないとできないだろうと思えます。言い訳をしてもしょうがありませんから、今後の監査の体制、現在、監査委員として2人おられますが、本気になってやろうと思ったら2人ではとてもできないということでもありますので、人数の件、あるいは監査の範囲の件、そういうもの、それから外部の監査を入れるべきじゃないかというようなことも含めて、監査に対する事務局の体制、それらを含めて今後、二度とこのようなことがないように、監査体制を見直しながら厳正に対処していきたいというふうに思っておりますので、ご理解をいただきたいと思えます。

それから市職員の選挙運動、市議会議員選挙の時に、市職員に選挙運動があったのではないかとこの質問でございます。私も聞いております。そしてその者に対しては、厳重注意をいたしました。職員の親が出てあって、少し体の心配があって、しばらくついたということがあったようであります。それは、市民の皆さんに誤解を招かれる行為であるということで、その者については口頭であります。厳重注意を行っております。その点またよろしくお願ひ申し上げたいと思えます。

それから次は、危機管理がどうなっているのかということでもあります。7日に暴風警報が出たのですか。このことについては全く聞いておりません。どういうことがあったのか分かりませんので、もしそういう2時間余りかかったと、連絡が地域の皆さんに対して2時間余りかかったということであれば、これについては調査をし、今後どうするのか対応を検討させていただきたいというふうに思えます。こういうことを事前に聞いておれば、調査をして皆さん方に説明と、そして今後の対策についてお話できるわけですが、そういう意味でできれば内容を聞かせていただき、詳しい内容は聞かなくてもいいので、このこ

とについて質問したいということだけでも聞かせていただければ、お答えのしようがあったのではないかと思いますので、よろしくお願ひ申し上げたいと思います。

それでは次に新幹線時代を迎えてアクセス道路等の整備計画、どうなっているかということでございます。幹線道路網の整備計画というものは、黒部市で持っております。旧宇奈月でも当然ありました。それらに基づいて道路網整備を進めているわけでありまして、そういう中で、やはり重点に進めなければならないのは、やはり国道8号バイパスの整備促進だろうと思っております。これは朝日・滑川間の8号バイパスの建設促進期成同盟会をつくっております、滑川・魚津・黒部・入善・朝日の3市2町で国あるいは県に対して、いろんな要望活動を行っております。このことについては、県も重点要望として国の方に働きかけをしていただいておりますので、新幹線開業までには何とか供用開始をしたいということで、進められているところでありまして、黒部区間につきましては、用地について70%ほど用地取得を行っております、今、埋蔵文化財調査等が義務付けになっておりますので、その調査等を行わせていただいている状況であります。

それともう一本は先程も言いましたが、都市計画道路新駅中新線の整備促進であります。コラーレ前を見られたら分かるように、コラーレ前は30m幅の4車線の道路が計画されておまして、それを何とかして中新地区から新駅まで、新幹線開業までには1本に通したいというようなことを計画しながら進めているところでありまして、

たくさんまだ道路については、先程言いましたような整備計画に基づいてやらなければならないわけですが、先程言われた行き止まりの道がいっぱいあってどうなっているのかということでございます。そういう中でも前沢植木線は、三日市の市姫通りが地鉄線のところで止まっております。その整備につきましては、今年度予算化して何とか今年度も事業予算化して進めております。まずは四十物商店さんまでをできるだけ早くと思っておりますが、第一段階的には飲食店のすだちさんまでを早くやりたいということで、測量あるいは移転等についても予算化をして進めさせていただいております。その前沢植木線、あるいは市道南線、北星ゴムさんのところで陸橋がかかっているわけですが、市道南線、あるいは生地地区の関係でいいますと、湾岸道路の整備等を今後積極的に進めていきたいと考えているところでございます。

そういう中で、もう1点言われたのは、三日市保育所周辺の区画整備事業、400億円と言われましたので訂正させていただきます。総事業費136億円でございますので、それについても約30%実施しております、もう100億円ほどの事業費が残っておりますが、今までの進捗からみまして計画を止めるわけにはいかないだろうと。あそこまで進めてきた計画を、いろいろご意見は聞いておりますが、着実に進めていきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

それから最後に生地地区の振興について、少し遅れているのではないかとということでございます。そういうことではなくて、先程も言いましたように、新しい市になりまして、今、総合振興計画で、これからどういうものを重点的に行っていくかということを中心として議論しているところでありますから、大きな事業については、どこもほとんど、新幹線関連だとか確実にやらなければいけないもの以外の事業については、これからであります。今の総合振興計画の中でも6分野に分けて整理しておりますが、それぞれの分野でどういうものを優先してやっていけばいいのかというようなことを議論しながら計画を決めて、そしてその計画に基づき進めていくということでありまして、

均衡ある地域発展を願っておりますし、生地の皆さんには、おっしゃられているまち歩き等のご協力もいただいておりますし、いろんな点で生地は魅力のある地域でありますから、是非、この生地の観光振興を中心とした事業については、これからも皆さんと一緒に積極的にやっていきたいと思っておりますので、ご理解をいただきたいというふうに思います。

ただ1点は、いろいろ生地の皆さんからお話を聞きますが、漁業資料館とか北方領土の資料館とかいろ

いるありますが、もう少しこんな、この生地のまちをこういうふうデザインしたいとか、こういう内容の施設をこういう場所でこうしたいという、もう少し意見をまとめていただいた方が、早く実現するのではないかと思います。一番生地のことを熱心に考えられるのは、やはり地元の皆さんだろうと思いますので、是非その点もご協力をいただきたいと思います。

大体質問されたことについてはお答えしたと思います。1点だけ、防災管理のことについては、また…。

【Bさん】

それについて、黒部市がどういう管理状態を持っているのかということです。

いざという時には、このようにしますとか。

【市長】

はい。防災計画は持っておりまして、危機管理、黒部市は例えば町内の役員さん、振興会の役員さんのところに防災無線を旧黒部は3百何十箇所に配備されております。旧宇奈月は今戸に配備されております。そういうものを利用して、緊急時には連絡するような体制はつくってあります。今回しっかりとした連絡に時間がかかったということであれば、ちょっと確認をさせていただきたいなというふうに思います。防災計画にのっとって行っているはずですが、それだけ時間がかかったということは、何か問題があったというふうに思います。

【Cさん】

いいですか。今のこの危機管理の問題で一つ関連ですけど、実は9時半頃に气象台の方から、NHKのテロップ、それから北日本放送もテロップが流れたわけです。富山県の東部に暴風警報が出たと。波も荒くなりますよということが出たのです。それで市の方へ問い合わせしたわけです。そうしましたら知らぬ存ぜぬで、ちょっと調べてみますということで終わったというのが第1番です。そして次に防災無線が入ってきたのが今ほど言われた11時半です。こちらの方から情報流したけどその情報が届いてないということです。その点について言っておられると思います。そして11時半頃になってしまうと、全く気象状況は待っておりませんから、もう通り過ぎてしまったと。これが実態なものですから、その点だけをもう少ししっかりしていただきたいと。

それと何年か前に防災無線の拡声器が付いているものについて、これについて聞こえない、風の方向で。生地も4カ所付いているわけですけど。そうかといって、各町内会長さんの自分の家にも入っていますけど、いつもその防災無線の前に座っているということはできません。皆さん働いていますから、そうすると、なかなか聞こえないと、どういうふうになればいいのか、最良の道を探して下さいということを3年前から提起しております。この返事は来ておりません。それでこういうような危機管理について、これはどうなっているのだろうかという意見が出るのは当たり前だろうと思います。一つよろしくお願いします。

【事務局】

それでは次の方からご質問を受けたいと思います。先程から何回もありますように、本日のテーマは総合振興計画の策定に向けてということで、今後10年を見据えて何に取り組むべきかということで、是非この本日のテーマに沿ってご提案をお願いしたいと思います。先ほどどなたか手が挙がっていましたけれども。はい、お名前と地区名を名乗っていただけますか。

【Dさん】

大布施のDでございます。提案に沿ってという話ですが、ちょっと話が長くなると思いますけど、市の職員のモラルの低下というではないかということで、今回の熊の件でですか、情報を開示すると電話での問い合わせが面倒であるとか、こういうようなことが新聞に載っていました。以前、市長にも質問したことがあるのですが、全国版の読売新聞におきまして、黒部市の窓口業務がなっていないというようなことだったと思います。それで市長に質問しましたら、市の病院の職員はそういう教育を受けているけど、市の職員は教育を受けていませんと、このような返事だったとっております。

それと先程もちょっと質問がでていましたが、公社の件につきまして、私は全然納得できません。はっきり言いまして。今日ここに議員さんも来ておられますから、やはりあのような件につきましては、きちりと告訴すべきじゃないでしょうか。私はそう思っております。聞くところによりますと、その職員は市の幹部でもあり教育関係の職務にもついておったというようなことを私自身は聞いております。これでは先程、一体感とかいろいろ言っておられましたわけですけど、これは職員のモラルが低下しているのではないかと思います。これをやっぱりきちりとしなければ、いくら立派なことを言っても、市民の人は殆ど信頼しないと思います。そういうことで、公社の件につきましては当然、刑事告訴をしていただきたいと思っております。返したから責任はありませんと、こういうことではやっぱり世間は通らないと思うのです。こちらに議員さんもおりますので、議会の方でしっかりと審議していただきたいと思っております。

それでは、ちょっと長いですがこれから道路のことに関してですけど、道路につきましては、計画から完工まで非常に期間が長くなります。当然、時代というかその時その時によって情勢が変わってきますので、やはり第三者による業務の強化、見直しというものを是非やっていただきたいというようなことでございます。一つの例といたしまして、私が昭和53年に県外から黒部の方にまいったわけですけど、現在の保健所ですか、今は新川厚生センターですか、あそこの道路は、私が昭和53年にまいりました時には8号線から生地の方までつながるといようなことで、その53年の2、3年後でしたか、ちょっと忘れちゃったけど、あそこの方の道路、家が壊されたり道が広なったりして、いつ繋がるのかなと思っておりましたら、今年に入りまして、ちょうど壊したところにまた建物が建築されているといようなことで、それは時代の情勢が変わって変更になれば、きちっとやはり説明をして、これは中止になりましたよということをお願いいただければいいのですけど、何か分からないうちに建っていると。これでは、やはり行政に対しての不信感が募るばかりでないかと思っているわけです。もう1点は、新幹線からバイパスの道路ですけど、私ら聞いているのは4車線といようなことかと思っております。計画しているといようなお話を聞いていますけど、まず市長にすぐ返事をいただきたいのは、新幹線は何を運ぶものかということをお聞きしたいのです。ご返事すぐお願いします。

【市長】

単純に答えればいいんですか、それとも。

【Dさん】

いや、単純にして下さい。

【市長】

人を運ぶものです。

【Dさん】

はい。人を運ぶということで今返事をいただきましたけども、おそらく黒部の新幹線の駅に乗られる方は、富山県の方がほとんどだと思います。ですから私は、4車線は必要ないという持論でございます。それよりも先程もちょっと話が出ておりましたけど、黒部インターとかスーパー農道とか、既設の道路との接続を考えられた方がどうだろうかと、こういうようなことでございます。それともう1点、まちの賑わいということですけど、やはりまちの賑わいとか人口を増やすということは、基本的には私は企業の誘致が最優先されるのじゃないかと思っております。新幹線、新幹線と皆さん何か喜んでおられるようですが、新幹線ができれば金沢とか上越が、おそらく30分圏内になりますと、金沢・長野あたりが該当するんじゃないかと思うんですよ。そういうことを考えれば、逆に流出ということも頭の中に入れておかなければならないと思います。何といても若い人が働く職場を誘致するというのが、やはり一番私は大切じゃないかなと思っておりますので、一つ努力していただきたいと思っております。

それと最後になりましたけども、もう1点、新黒部市になりまして、こちらのほうに美術館があるわけですけど、美術品の収集とか展示ということを考えなくてはと思っております。特に私が知っている範囲では、旧宇奈月町の方に芸術の意外と有名な方がおられるんです。浦山でいいますとフランスの方におられる二口さんとか、日本のゴッホといわれる橋本さん、それから順番にあがりますと内山の方いきますと音沢ですか、亡くなられた佐々木大樹さん、それから宇奈月温泉の方では戸出さん、そういう人のやはり作品の収集とか展示を考えられてはどうだろうと。このように思っております。一つ観光客の目玉としても考えていただきたいなと思っております。以上です。

【市長】

ありがとうございました。

まず初めに職員のモラルの低下に対するご質問・ご意見の中の、市職員の接遇研修のことです。病院は当然やっておりますが、今黒部市の方におきましても接遇研修は行っております。1回したからいいというものではなく、定期的に行うこととして今行わせていただいております。職員の接遇もそうですし、法令あるいはルール、そして公務員規律の順守につきましても徹底して行っていきたいというふうに思っておりますので、ご理解いただきたいと思っております。

それで質問の内容について少しお話をさせていただきたいと思えます。

まず道路につきましては、都市計画道として計画されて、途中まで行って、今現在進んでないものが、やはり何本もあります。それにはやれなかったいろんな理由がございます。地権者の同意が得られなかったとか、いろいろな状況の中で現在があるわけでありまして、これらは計画を作る時の在り方にも少し問題があったのではないかと。要は地区の皆さん、あるいは地権者の皆さんに、いろいろ説明をしたり、意見をいただいてから計画をしていけば、こういう状況には余りならなかったのではないかとこのように思います。これからは計画を策定する上で、地区の役員の皆さん、あるいは地元の地権者の皆さんのいろいろなご意見・ご相談をしてから計画を進めていかなければ、今みたいなようなことが多く起きてしまう。よく道路に関しては、西高東低ということで、西側の県西部の方が道路が早く綺麗に進んでるというようなこともよく聞きます。それはやはり地権者の同意を全てまとめあげて、いろいろ活動がされているものですから、計画ができて実際行動を起こしたら、割りとは早く進んでいくのが西部であります。東部はそうではなくて計画が先にあってそれから地権者の皆さんにいろいろ説明するものですから、いろいろな意見が出てなかなか思うように進められないというようなこともありまして、是非これからは計画を立てる前の段階からいろんな方に、地権者を中心として、いろんな方にご相談を申し上げてから計画をする。そういう意味ではやはりいろんな情報を共有するということがたいへん大事ではないかというふうに思っておりますので、今現在は確かにおっしゃられるとおりであるというふうに思います。

それから、その道路の中で、新駅中新線が4車線必要ないのではないかとということでもあります。黒部市は8号線を中心として南北に通じる道路は、幹線道路が整備されているわけではありますが、東西の点についてはやはり不足していると思っております。しっかりと海から山まで新しい黒部市になって一つのまちになることがイメージできるような道路整備、海岸部から宇奈月温泉までしっかりとこの道を通じるのだというような道路を整備する必要がある。そのためにコラーレの前は30m4車線、そして現8号線の上は県で行っていただいているわけですが、27mで2車線というようなことで計画をされて進めております。是非この計画でこれからも進めていきたいと思っております。それでまた新幹線のアクセスで農免道路、あるいはスーパー農道のこととも言われましたので、当然新幹線の魚津側からのアクセス道路で農免道路、どう言えば分かりますか、8号線から上流部に布施川、金太郎温泉のちょっと下の方に橋が1本架かっておりまして、そこが田家地区で止まっております。それを前沢まで、今温泉病院の下から前沢地区、トヨックスさんのちょっと上の方で取り付くように計画されておりました、それもここ5年ほどの間には開通させることができるのではないかとこのように考えておりました、8号線と背骨道路、そしてそういう農免道路の整備もこれから進めていきたいというふうに思っています。

それから賑わいづくりには企業誘致が効果的であるということでもあります。当然企業誘致もいろいろと進めさせていただいております。現在小さい規模ではございますが、新しく今、黒部の方に企業を持ってこられて工事を行っているところが1社、そして今決まっています、まだ工事がされていないところが1社、石田の企業団地でございます。そしてまたその他にも100人規模以上の企業で今具体的に打ち合わせを進めている企業もございます。また私も先週東京へ行った際に、富山県の企業立地セミナーで、80社ほどの参加の中で黒部市のPRをさせていただいて、是非企業を黒部市につくっていただきたいというようなこともお話をさせていただいておりますので、これはトップセールスでこれからも頑張っていきたいというふうに思います。

それから新黒部市になって美術品の収集・展示を行ったらどうかということもございます。あまり高価なものを買う力はなかなか黒部市の方ではないと思いますが、宇奈月には佐々木大樹さん、あるいは戸出さんというような有名な作家の方も、大樹さんは黒部市の名誉市民になっておられます。そういった方の作品、あるいは戸出さんの作品に個人的には非常に興味のある作品が1点ございます。黒部川という作品であります。今ユネスコの本部のエントランスロビーにかけられている黒部川という大作がございます。これは本当にすごい黒部川を象徴する作品だと思いますので、非常に個人的には黒部川は黒部にあつたらいいなと思っておりますが、ユネスコ本部にあるということもございますので、貸してあるというだけだということも伺っておりますので、そういうことも含めて、美術品の展示などについては美術館では地元作家の展示は随分行っておりますし、毎日何かそういう企画展はやっておりますので、是非ご覧をいただきたいというふうに思います。時間もありませんので簡単にお答えをさせていただきました。

【Dさん】

今ちょっと美術品の件で、やはり私ちょっと佐々木大樹さんの美術品を東京から持ってこうかというお話があったんです。今助役されている中谷さんが知っておられると思いますけど、たまたま見に行かれた方が変なこと言いまして、没になってしまった。30点くらい何か東京の方にあつて、その当時の宇奈月町ですかの方に寄付するというような話まで進んでおりました、変てこなことになって駄目になった経緯を私知っておりますので、是非市内の方が、年いけば、段々価値上がるとなかなか買いづらくなりますので、若い内は、安い内に手に入れるというのも一つの方法だと思いますので、また一つ考えていただきたいなと。また助役さんにでも聞いていただければ、いきさつは分かると思いますので、私は嫌なほどそのいきさつ聞かされておりましたので、残念だなと、このように思っています。以上です。

【事務局】

予定時刻も近づいておりますけども、どなたか。はい。男性の方。

【Eさん】

私、生地上町のEと申します。もう時間も大分遅くなりましたので、2点だけちょっと質問させていただきます。

災害に強いまちづくりということで、市報による黒部市の自慢できる意識調査結果に自然災害が少ないというのが第2位になっております。自然災害が少ないのを自慢するのではなく、自然災害はいつ起きるか分からないという心掛けで災害対策が必要と思われれます。当地区のように、海からの津波、そして黒部川洪水での浸水が、深さ1mから2mという想定がされております。このような状態がおきたら早い避難が第一であり、全住民の車で移動が予想されることと思います。避難するためには、道路の整備が必要と思われ、当地区の持つ道幅は狭く、スムーズに繋がっている交通網を考えて欲しいと思います。

最後に、黒部市が新市となった今、山から海までのキャッチフレーズで活動していますが、その中で清水の里生地について一言申したいと思います。毎日のように全国から多数の方がおいでになりますけども、こんこんと出る水の力、透明でおいしい水を堪能されている姿を見て誇らしく思うところではありますが、清水は無限ではありません。いつか無くなるものと考えます。どのようにして清水の里生地の湧水が永く枯れることなく保たれるように、地元と当局が一体になって対策が必要であろうかと思えます。水は大事な財産です。以上2点についてお願いいたします。

【市長】

ありがとうございました。

おっしゃるとおり災害はいつ起きるか分からないのではなくて、必ず起きるといような思いで対策を進めていかなければならないというふうに思います。そういう中で、生地の道路が狭い、災害があった時には、なかなか避難に支障があるのではないかとということでもあります。たいへん難しいわけですが、生地の漁師町の風情、これが財産なわけですが、そのために、まち歩き等がたいへん多く皆さん来とられるわけですが、それを無くすように町並みを再整備、道路を広げるといことは、再整備することに繋がるわけですが、それらをどう両立させるかといことはたいへん難しい問題であります。その辺は今、生地の道が非常に狭いといこともよく理解しておりますが、どういうふうに安全・安心なまちづくりと、そういう生地の財産である町並みとをどう両立させるかは、今後皆さんとやはりいろいろ協議させていただきたいと思えます。

それから確かに清水については、無限ではなからうと思えます。どれくらいの清水が今この生地地区、あるいは石田・村椿地区に出ているのか。私が聞いているのは600本か700本掘りぬきがあるのではないかというふうに、以前は1,000本以上あったと伺っておりましたが、今は600か700じゃないかなと言われていようであります。是非その辺の調査からしなくてはいけないのではないかと。掘りぬきが自由に今皆さん使っておられることに対して、今何もルールがないわけですが、是非その辺の本数の調査、あるいは水の量の調査、そういうことを進めていかなければならないのではないかと思えますので、たいへん大事なことだと思えます。今は自由に出ていますからいつまでもあると思っているようなところがありますが、先生方に言わせれば立山の水は、黒部川水系に降った雪の量の清水であがってきている水の量はほんの一部だといようなことも言われる方が多くおられますが、ただ水の量とか本数が減っているといことも事実だと思えますので、是非そういう調査からしていきたいというふうに思えます。

【事務局】

他にどなたかございますでしょうか。

ないようでございますので、これまでいろんな良い意見をいただいたところでございますが、時刻もほぼ予定した時間になりましたので、以上をもちまして本日のタウンミーティングを閉じさせていただきたいと思っております。それでは閉会にあたり、堀内市長から本日お集まりいただきました皆様へのお礼も含めまして、ご挨拶申し上げます。

【市長】

たいへんお疲れのところ熱心にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。また今回は、タウンミーティングということで、新生黒部市のまちづくりをテーマに開催させていただいたわけですが、市職員のモラルの低下、あるいは不祥事に対するいろんなお言葉、そういうようなことも当然意見としてあるわけでありまして、そのことに対しては、これからしっかりと取り組んでいかなければならないというふうに思います。もう少し時間があって、本当に新生黒部市のまちづくりについてのご意見をもっといただきたいというふうに思っておるわけでありまして。

先ほど言いましたように、総合振興計画は、新黒部市の最上位計画、憲法のような計画であります。ですから、大きな事業でこの中に入らないものは、この10年の中で実現することはありえないということでもあります。ですから本当に、この生地・村椿あるいは大布施地区の皆さんが、新しい黒部市として何をしなければいけないのか、あるいはこの地域にとってどういうものが優先なんだということをしかりと届けていただきたいと思っております。何か適当に決めてよってということではなしに、決まったらもう動かさなくなる可能性が、さっき言いました基本構想は動きません。基本計画も動きません。実施計画の見直しは当然しなければならぬと思っております。ただ大枠は今しっかりと考えて、議論をしてまとめないと、これはその後言われても実現することはできませんので、そういう点、今日この場だけではなくて、地区の役員の皆さんがたくさん来とられますし、あるいは文章で、そこには書き足りんということであればどういう紙を使っても結構でありますから、こういうふうなまちづくりを行って欲しい、是非こういうことは忘れないで欲しいというようなことがあれば積極的をお願いをしたいということでもあります。

本当にここ数年は計画を立てるまではたいへん大事な時期であります。ここがしっかりしない限りは、本当にいいまちにならないというふうに思っておりますので、是非ご理解とご協力を賜りますようお願いを申し上げます。本当に今日は平日お疲れのところありがとうございます。これからも是非ご支援をいただきますよう心からお願いを申し上げます。たいへんありがとうございました。

【事務局】

皆様にはお忘れ物のないよう、ご確認下さい。またその黄色いアンケート用紙は、ご記入の上、出口の係りの者にお渡しいただきたいと思っております。

本日はどうもありがとうございました。